

繋がりで地域活性化

に控え人手不足問題も未解消であるなど、国内でも多くの不安要因を抱えています。

このような中、明るい話題として5月に新天皇の誕生、新元号への変更が予定されており、わが国全体がお祝いムードに包まれることが期待されております。

また、来年には東京オリンピック・パラリンピックを控え、地方においてもいよいよ本格的な国際化が加速するものと思われます。岐阜においても、来年はNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を控えており、岐阜を舞台に主人公である明智光秀や斎藤道三の姿が描かれます。すでに岐阜県・岐阜市を中心とした推進協議会が設立され、観光客誘致を進めています。

岐阜商工会議所といたしましては、行政や他団体、さらには他地域との繋りを強めることで地域の活性化に貢献するとともに、地域内の企業の発展に尽力できるよう、以下の点について特に力を入れてまいりたいと思います。

中小企業・小規模事業者への伴走型支援

おり、重要な経営課題となっております。人手不足問題の解決策のひとつにIoTの導入があげられます。IoTは、生産性の向上と省人化につながる大変有効な手段ですが、まだまだ周知が不足しています。そこで、従来から取り組んでいた創業・事業承継にIoTを加えた三本柱を中心に支援を行い、セミナーや個別の相談事業を展開いたします。

また、小規模事業者の経営課題に対して「経営発達支援計画」に掲げる事業者に寄り添った伴走型支援に注力いたします。

昨年11月に岐阜県・岐阜市・岐阜高島屋と当所の4者で「地域活性化に関する包括連携協定」を締結いたしました。本年はその協定をもとに様々な連携を図ってまいります。

『第3期岐阜市中心市街地活性化基本計画』において、目指す市中心市街地の都市像である『エリアの空間需要を喚起し、投資が起る持続可能なまち』を軸とした『まちの魅力となるコンテンツの創出』と『まちの活力を支える居住者の確

産官連携による中心市街地の賑わいの創出

国際交流を通じて岐阜の活性化

昨年、当所と県連の合同経済視察団をリトアニアへ派遣し、リトアニア産の蜂蜜を輸入し、日本での普及に向けて連携する覚書を締結しました。

岐阜シャツプロジェクトでは、昨年イタリアのフレンチツェにある老舗シャツメーカー「ジームス社」を訪問しました。今年の岐阜シャツモデルを共同で企画販売していきます。

また、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、岐阜市がスロバキアのホストタウンとして登録されており、今年は同国との様々な交流事業が予定されております。

これを機会に岐阜市と連携のもと、官民あげてスロバキアとの交流を促進するため、当所としても全面的に協力していきたいと存じます。

観光振興による地方創生

来年1月より放送されるNHK大河ドラマ「麒麟がくる」は、明智光秀の生涯を描いた戦国時代の物語で、岐阜が舞台になります。岐阜県を中心に観光振興が進められています。岐阜市でも大河ドラマ館の設置やゆかりの地を巡る観光コースの作成、長良川河畔の再整備などが計画されています。そこで、当所も県や市と連携して岐阜の観光振興に注力したいと存じます。

また、今年で4回目となる「鮎菓子たべよう博」につきましては、今年も岐阜商工会議所会館を主会場に開催いたしますが、若い世代を中心に集客力のある「サンデービルダングマーケット」や岐阜高島屋と連携を図りながら、岐阜の中心市街地である柳ヶ瀬の賑わいを創出していきたいと存じます。

簡単ではございますが本年の重点事業をご説明いたしました。

岐阜を活性化するため、今以上に関係団体との連携を密にして諸事業の推進をしていきたいと存じます。

年頭記者会見 岐阜商工会議所

繋がりで地域活性化

当所では1月8日(火)、村瀬会頭と4名の副会頭がそろって年頭記者会見を行い、本年の基本方針と重点事業を発表しました。



会頭 村瀬 幸雄

昨年を振り返ってみますと、米国の関税強化に端を発する米中貿易摩擦が過熱する一方、全体的には日欧EPAやTPPなど自由貿易へ大きく舵を取る動きもあり、堅調な企業の業績を背景に雇用・所得環境は改善が続いて、総じて緩やかな回復傾向でした。

他方、中小・小規模事業者を取り巻く経営環境は、人手不足や原材料価格の上昇、さらには後継者難の顕在化やAI・IoT化の急激な進展等により、厳しい状況が

続いています。

岐阜経済に目を向けますと、度重なる豪雨の影響により、長良川鵜飼が長期休業となるなど、観光産業を中心に大きな影響を受けるなど一部弱含みもありましたが、活発な生産活動により製造業を中心に持ち直し全体としては概ね回復傾向でした。

本年につきましては、引き続き米中による通商政策の衝突や、英国のEU離脱など、海外における懸念材料に加え、消費増税を10月

繋がりで地域活性



ＩＴ・ＩＯＴ分野でサポートを

副会頭 **大松 利幸**

現在、人間の喜怒哀楽に対応するアプリケーションができるなど、画像認識・音声認識等のデジタル革命が日進月歩で進んでいます。ＩＴ技術の発展に伴い長期の景気の上昇波動が続くと思いますが、その中でもデジタル革命は、効率の良い企業が発展し悪い企業が脱落していくという傾向があります。最近では、資本主義が進展しすぎたこともあり、大企業はますます大きくなり、中小企業はますます厳しい状況になっています。デジタル革命に取り組むには、投資を重ねるとともに知識も必要となります。商工会議所として、ＩＴ・ＩＯＴ分野にかかる支援を形に見えるようにサポートしていきたいと考えます。



経営発達支援計画の拡充

副会頭 **廣田 孝昭**

小規模企業支援の柱である経営発達支援計画では、12名の経営支援員により巡回と窓口で対応するなど地道でアナログ的な支援を行っていますが、今年にはより充実した支援を行いたいと思います。アパレル分野では、昨年は猛暑と暖冬で条件が厳しかったこともあり、今後は需要予測についてＡＩ及びＩＯＴが必要になってくると感じています。アパレルは、海外から見ればまだまだ成長産業、岐阜のアパレルが海外需要に応えることが、岐阜のアパレルの発展につながります。また、岐阜シャッププロジェクトでは、新しい２つのデザインを出していく、より広く充実した展開をいたします。



中小企業の活性化にはインフラ整備が重要

副会頭 **高橋 泰之**

地方創生の成功は、地域資源の活用にかかっており、観光資源・地場産業の生産性をあげること、そしてブランド力を向上させることが重要です。生産性をあげるには、インフラを充実させるなど社会的生産性を上げることが考えられますが、当地域では、東海環状自動車道の西回りの促進、名岐道路などの促進を図っていく必要があります。また、岐阜インターチェンジが設置されることにより、「岐阜」という場所が明確になり、岐阜のブランド力向上につながることが期待されます。

岐阜の発展には、交通インフラの整備が必要不可欠なので、要望活動などを通じてひきつづき整備促進をはかっていきたいと思っています。



貿易の自由化に伴う海外支援

副会頭 **小澤 義行**

人口減少・人手不足など厳しい社会環境が続いていますが、世界に目をむけますと、終わりの見えない米中の貿易戦争の影響で、今年の日本経済にも不透明感ができています。

一方で、ＴＰＰ11や日ＥＵ・ＥＰＡの締結で世界のＧＤＰの40%を超える地域で貿易の自由化が始まります。この流れに乗り遅れないように、海外とのつながりを強めていくことが大切です。そのためには、空港や港に繋がるインフラの早期整備と情報収集が必要になってまいります。

私は物流業に携わっていますので、そのお手伝いをする事で岐阜の活性化にますます貢献していきたい所存です。